

只見高校生

R289 (いわき市~新潟市) フルコース踏破



▲ゴール地点の新潟中郵便局前でフルコース踏破を喜ぶ只見高校生ら

国道289号線の早期全線開通と八十里越周辺の貴重な自然環境の保全などを広くアピールすることを目的に、R289フルコース踏破実行委員会（酒井正吉郎委員長）が主体となり、「R289（いわき市～新潟市）フルコース踏破」が行われました。実行委員会は、選ばれた只見高校1、2年生26名と先生や保護者、一般町民、只見町などで構成されています。

高校生が3名ずつ約10kmを自転車で走りタスキリレーしながら、全長32.5kmを踏破。途中の八十里越は徒歩で踏破するという計画でしたが、見事に7月24、25、31日と8月1日の延べ四日間でフルコースを踏破しました。

実行委員会のメンバーは7月23日、只見地区センター前に集合。出発式が行われ、目黒町長が激励しました。その後、いわ

き市に出発したメンバーは前泊し、翌朝24日の5時過ぎに勿来の関公園を出発、この日は西郷村の「キヨロン村」まで、約100kmを走りました。25日は、「キヨロン村」を朝7時にスタート。甲子トンネルを通り、下郷町から南会津町の駒止トンネルを通過、午後2時ごろ只見町に入りました。国道沿いでは町民の皆さんが笑顔で手を振ったり、拍手を送ったりして、出迎えていました。さらに、目

黒町長と久保副町長も一部区間を高校生と一緒に走り、応援しました。また、ゴール手前約5kmからは只見高校の野球部員と一緒にランニングし、みんなで入叶津の大麻平に午後4時ごろゴールし約100kmを走り切りました。

31日は、いよいよ歩きのコース、朝6時に大麻平をスタート。天候は曇り空で歩くには快適なコンディション、この日は実行委員会メンバー以外にも南会津建設事務所職員や一般参加も加わり、約60名が八十里越の道のりを歩きました。

途中、ぬかるみやロープをつかまないと渡れない危険箇所もありましたが、11時間かけ約25kmを歩き切り、新潟県三条市の吉ヶ平に全員がゴールしました。最終日の8月1日は、吉ヶ平を朝8時にスタート。三条市の國定勇人市長ら三条市民の皆さんも拍手で激励してくださいました。新潟市内に近づくにつれ交通量も増す中、順調にタスキをつなぎ、約80kmを走り切り、予定時間より30分早く新潟中郵便局前に到着。国道289号のフルコース踏破を成功させました。



▲スタート直前の只見高校生(24日・勿来の関公園)

誰一人、体調を崩さず延べ四日間でフルコースを走り、そして歩きとおした只見高校生の皆さん、おめでとうございます。みんなで意志を統一し目標の達成に向け頑張りぬいたこの貴重な経験からつかんだものを、これからの学校生活に活かしてほしいと思います。そして、この事業が安全に行えるようサポートされた実行委員会メンバーの皆さん、ご苦労様でした。この事業実施により国道289号線の早期全線開通が一日も早く実現されることを願いたいと思います。最後に、国道沿線の各地域で心温まる様々な歓迎をいただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

真夏の国道289号線を見事に走り・歩きとおした



地元「只見町」では
皆さんの応援を受け
元気づけられました。
(25日・小林地区)



R289フルコース踏破実行委員長
酒井 正吉郎さん（只見）

この度の事業は、只見高校が趣旨にふたつ返事で賛同され、参加した1～2年生も、自分の意志で積極的に志願し、大人のスタッフはボランティアを快諾され、全員一丸となり実施し、実り多き四日間に渡る踏破行でした。途中、只見町はもとより、いわき市、白河市、西郷村、三条市他、多くの地域住民の方々からも、想定以上のご支援と大歓迎を受け、国道289号線の早期全線開通に対する両県民の関心の高さを肌で感じました。スタートからゴールまで多くのマスコミ各社に取り上げていただき、日一日と成長していく高校生の姿に、只見町の将来を託す我々大人組でした。町内では、初回の八十里越踏破から17年が経過しました。県境トンネルも今年10月には貫通し、只見町も歴史的な転換期に向かいます。先人からの自然遺産、文化遺産を守りながら、ふる里只見の将来像を模索する老若男女の踏破隊でした。みなさん、ありがとうございました。



R289フルコース踏破隊リーダー
橋 翔太さん（只見高校2年1組）

今回、このような大きな事業に町全体で取り組み、誰一人として欠けることなく最後まで踏破することができたことが、一番の喜びでした。

また、仲間と一つのことをやり遂げるということの重要性や、自分自身の大きな成長を感じることができました。

長い道のりのなかで、たくさんの人に出会い、人の優しさや温かさをもらい、友達と励まし合い、そして、なにより勇気をもらいました。

また、隊長としてみんなをまとめるのは大変だったけれど、みんなの協力があって、最後までやりぬくことができました。

また、人は決して一人ではないということ、誰かにいつも支えられて生きているということを強く感じました。

最後に、この経験ができたこと、そのすべてのきっかけや、すべての人へ感謝の気持ちを忘れずに、これからも頑張っていきたいです。



▲大麻平(入叶津)にゴールした只見高校生ら



▲ゴール直後に胴上げをする只見高校生